

避難所運営

災害時の避難所運営方針は

町 中長期の避難所運営には共助が不可欠



岡村 繁範 議員

住民主導の避難所運営に移行するための「共助」「公助」の連携構築は。

町長

町には「坂町職員初動マニュアル」「避難対応マニュアル」を作成し、避難所の開設、運営を行っているが、中長期の避難所運営となると、地域で協力して取り組む「共助」が不可欠である。

議員

避難所運営を共助としていくため、初動は行政主導にて育成しては。

環境防災課長

今後開催される防災士との会議などの場を活用しながら意見交換をしていきたい。

議員

坂町の自主防災組織の詳細は。

町長

自主防災組織とは、災害基本法において「住民の隣保協働の精神に基づき自発的な防災組織」であり、町内13地区に設置され活動していただいている。

議員

ペット同行避難の施設と周知方法は。

町長

ペット同行可能な施設は、室内ではなく屋根の下ではあるが8カ所ある。

防災行政無線やホームページで周知を図ってきたが、今後はガイドラインの掲載やハザードマップにも掲載する。

地域猫

地域猫活動の周知を

町 広報、ホームページ掲載で周知



末吉 克巳 議員

広島県地域猫活動の制度を周知してきたか。

町長

町広報や町のホームページへの掲載により周知している。問い合わせがあった場合、地域猫活動に関する補助制度を説明している。

議員

県が無料で実施している不妊手術の頭数制限はあるのか。

町長

令和5年度の不妊手術の上限は500頭と何っている。

議員

地域猫活動をしている団体に町が使用していた保護器を譲渡することはできないか。

環境防災課長

町の業務で使用しているため、保護器の譲渡はできないが、地域猫活動を始める場合、県動物愛護センターが保護器の貸し出しを行っていると同っている。



避難所の運営は



地域の人が困っているのかにやあ

移住促進

移住・定住のさらなる推進を

町 小屋浦地区活性化へ向けた基本構想を策定



中川 ゆかり 議員

坂町の魅力を知ってもらい住んでもらうための新たな施策の構築は。

町長

本町における移住・定住施策として今取り組むべきは、被災から人口減少が著しい小屋浦地区の活性化であると考えている。

現在、小屋浦一丁目の再開発に向けた調査・検討を行っている。

その結果を踏まえ、住宅、商業、医療などの事業者誘致に向けた課題の整理など、活性化に向けた基本構想を策定予定である。

議員
町を目で見て知ってもらうため、行事に合わせた移住ツアーなどを考えては。

企画財政課長

VRを使って疑似体験できる施策を展開している。

他市町の移住ツアーの実態結果などを参考に検討していきたい。

議員
空き家を活用し、ゲストハウスや移住体験住宅を整備しては。
小屋浦地区は、町有住宅の空いている箇所の活用をしては。

企画財政課長

町を実際に体験していただくことは重要と考える。

そのような取り組みが本町の実情に合っているかも含め検討していく。

町有住宅は、補助金の関係で移住体験住宅に転用できるか調査が必要である。

循環バス

デマンド相乗りタクシー導入を

町 将来にわたって財政的負担がないことを分析したうえで協議検討



柚木 喬 議員

循環バス見直しの提案として、デマンド型相乗りタクシー導入を提案するが。

町長

デマンド交通システムは、「事前予約制の交通サービス」で、路線バスの運行距離が長く、利用者が少ない地域においては効率性・経済性にも適したサービスと考える。

提案の「乗合タクシー」を本町に導入する前提としては、専門の事業者に参加をしていただく事、利用料金がサービスに合わせた高額になることや携帯のアプリを使用し、

個別で予約をする事などが考えられる。
町は、定額で、1時間に1本のペースで地域を結ぶ循環バスを既に運行しており、多くの方々に利用いただいている。

町長

現在、150円で循環バスを運行している。それに勝るような提案をしていただきたい。
ライドシェアについては、現在、国土交通省をはじめ国の方で、検討していること承知している。その結論が出た後に、検討をする。

議員
介護タクシーと乗り合いタクシーを併用できるように、ライドシェアの活用は。



乗り合いタクシーと循環バスどっちが安価？